

若者を呼び寄せるための「あれこれ」

浅野市政の特徴の一つとして「働く若い年齢層を対象とした政策」に力を入れています。働く年代層に魅力があり、多く集まることは、現在から将来にわたって財政的にまちを支える人が多くなることとなります。

住むところ、働くところ、子育てなど、若い人が必要とし、魅力を感じるまちにするための政策がはじまっていますので、いくつかご紹介します。

1. エバレットコミュニティカレッジと連携協定

エバレット市は、近年は航空機産業や、通信・電子工業などの先端産業が盛んで、市内にはボーイング社の主力組立工場が立地するなど、航空宇宙産業の一大拠点となっています。

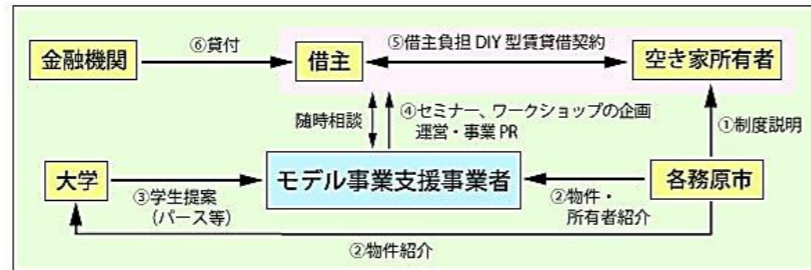
エバレットコミュニティカレッジ内には、ボーイング社などと連携・協力して、航空機産業に関する高度技能教育センターがあり、専門的な知識・技術を持った人材を育成しています。

本市は、昨年11月にこの学校と航空機産業を核とした協力・交流を促進する連携協定を締結しました。今後は、市内企業による交流・派遣などを通して、技術人材の育成やネットワーク構築などに結びつくよう、現在カリキュラム内容などの調整を進めているところです。



2. 空き家を活用した移住・定住の提案 ～「空き家リノベーション」

貸主が空き家を現状のまま賃貸し、借り手が自由にDIYで自分たちのライフワークにあった住まいにリフォームしていく。建築系大学がプランの提案をしたり、銀行がDIY費用を無担保融資したりして支援をしていく。このように空き家をうまく流通して、「空き家対策」と「人口減少」の問題解決をしていこうという取り組みが始まった。この取り組みは、市役所で行われている「あさけんクエスト」と呼ばれる職員からの自由な発想に基づく提案が実現したものです。



3. 雇用確保の広域展開

現在、人手不足となっている市内企業が雇用確保できるように、東北や九州などの高専・工業高校などを対象に、全国的広域的に本市産業のPRを進めます。本年度新たに担当官が配置されました。

4. ふるさとクラウドファンディング「ファーボ美濃國」

地域を盛り上げるためのプロジェクトを実現するための手段として、クラウドファンディングという手法を始めました。クラウドファンディングとは、不特定多数の人がインターネット上で賛同する活動などに財源の提供や協力などを行うやり方をいいます。「ファーボ美濃國」は、本市と関市・美濃加茂市と合同で行っているまちおこしのためのクラウドファンディングで、本市の第1号は、市内の中学生が書いた作文を元にした映画制作のプロジェクトで、既に目標金額をクリアされました。



後援会旅行・イベントなどの案内ご希望の方は後援会事務局まで



池戸一成 後援会 会報

しぶがき通信

巻 号

発行日：平成28年5月
発行者：池戸一成後援会事務局
各務原市蘇原柿沢町1-15
TEL：371-2749
HP：http://ikedo.info/

毎年3月議会では次年度予算が審議されます。予算には市長の思いが色濃く表れます。今回も予算を分析して、各務原市が目指すまちづくりを検証してみます。

今回も、私のテーマのひとつである「わかりやすい市の会計」のため、相変わらず、予算書・電卓・パソコンとにらめっこが続き、私の机の上はとんでもない状態です……。

池戸 一成



市庁舎建設で市民サービス低下はしないようです

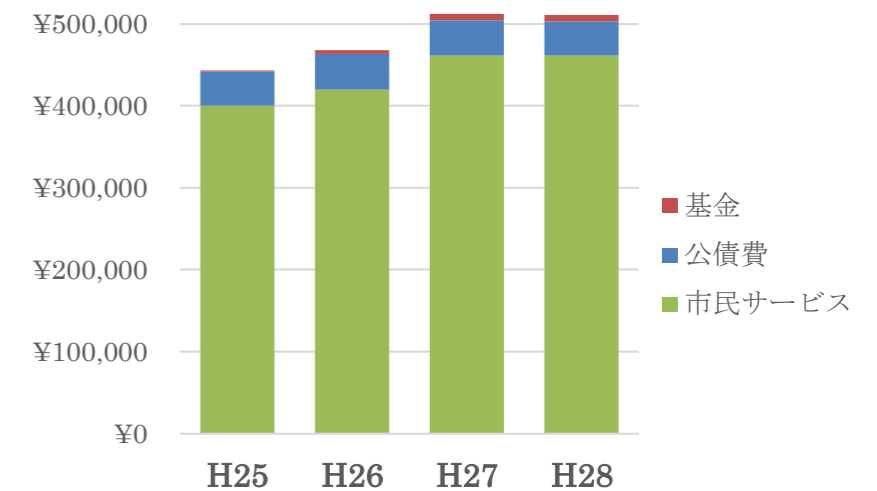
H26年度に市庁舎の耐震化対策として、経済面・安全面・サービス面などの観点で「新築建替え」が望ましいとの結論が出されました。

市庁舎の耐震化など整備のための基金（貯金）をH25年度から積み立てはじめ、平成31年度までに合計80億円貯める計画です。

右のグラフはここ数年の市民ひとり当たりの歳出（一般会計と特別会計の合算）の推移です。歳出には基金（貯金）と公債費（借入金返済）が含まれますので、それ以外が市民サービスに充てられる額といえます。

市庁舎耐震化のための積み立てを始めたH25年度以降、市民サービスは低下していないどころか、むしろ増えていることが分かります。国の政策や財政運営の工夫によるものといえます。

市民ひとり当たりの歳出予算の内訳推移



学童保育サービス拡大

昨年度まで受け入れ対象を3年生（夏休みは4年生）までだった学童保育が、年間を通じて6年生まで受け入れが可能になりました。高学年まで受け入れることにより、保護者が、より安心して就労できる環境が整えられたこととなります。

そして、これに伴い那加一小、鶴沼一小、中央小の3校の学童保育を民間委託することとなりました。

民間委託で期待できる効果は、

- ・ 事業者の豊富な人材を活用し、支援員の配置などが柔軟に対応でき、安定的なサービスが提供できる。
 - ・ 事業者のノウハウを活かしたスポーツおにごっこなどの遊びや創作活動を行うことができ、夏休みなどの子供たちの活動が充実する。
- などがあげられます。

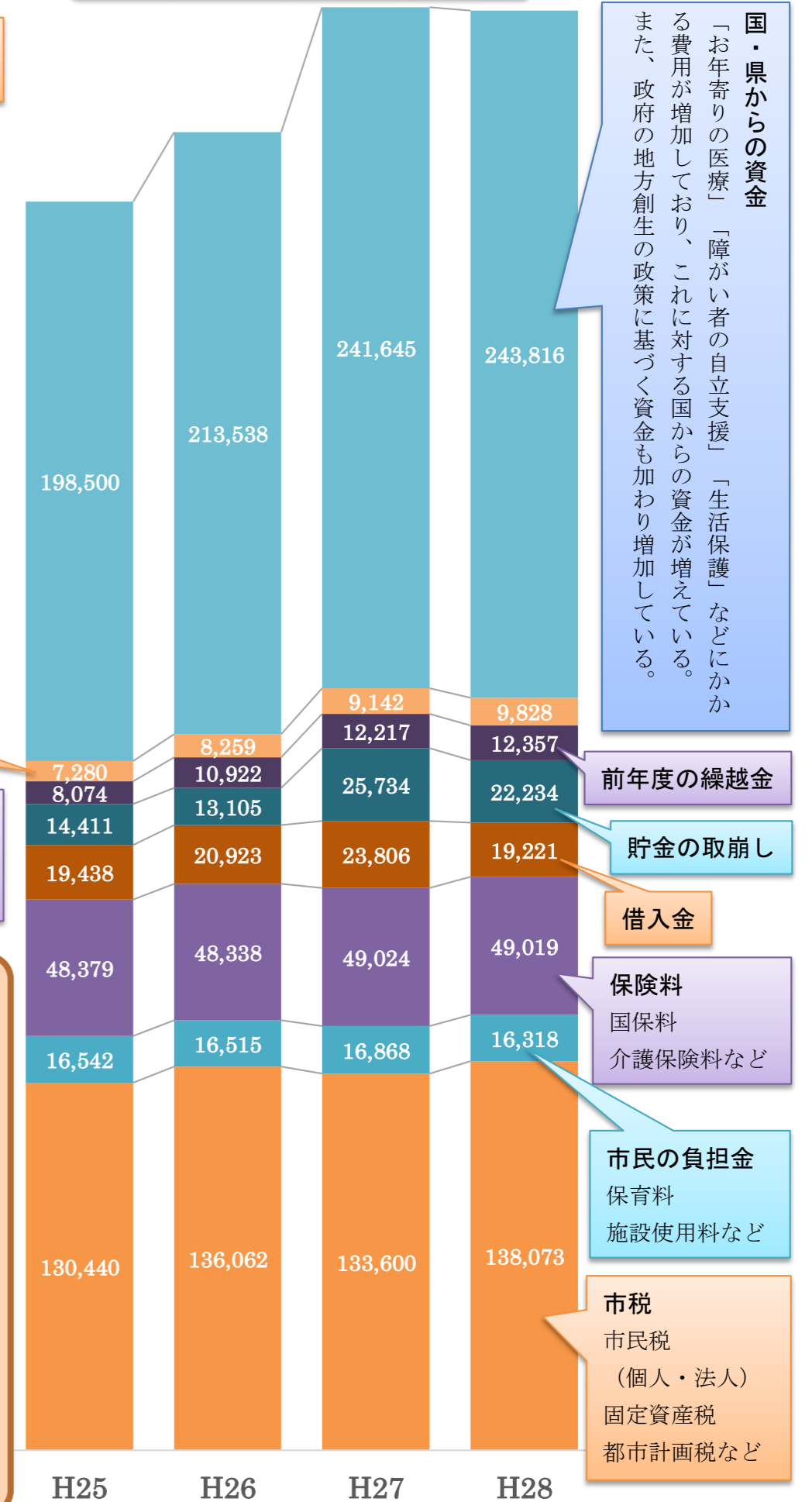
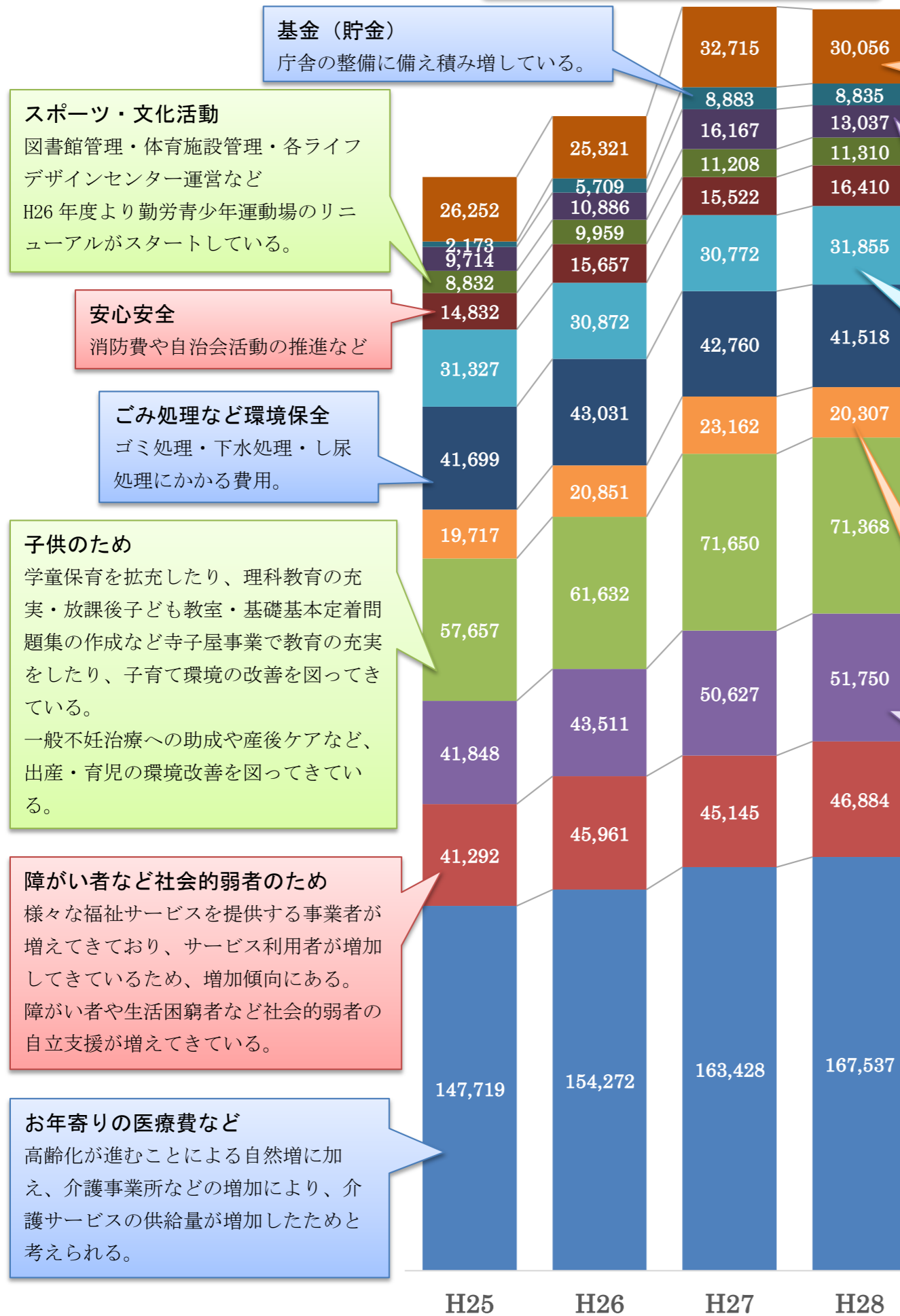
ちなみに、児童の受け入れ状況は、H27年4月1日が972人だったのに対し、H28年4月1日現在1,114人で増えています。以前から多かった要望に応えるものです。



浅野市長 1 期目 4 年間の予算の推移

市民ひとり当たりの歳出 (単位: 円)

市民ひとり当たりの歳入 (単位: 円)



予算から見える浅野市政の方針

市の財政を支えるのは働く現役世代ですので、人口減少時代に入った今、将来に向けて安心して暮らせるまちを持続するために「若い世代にとって魅力あるまち」を目指す必要があります。

共働きが主流になった現代、若い世代が働き、生活しやすい環境づくりが大切になっています。「子育て(教育充実)」「地域産業(働き口)」に力を入れて、現役世代、特に若者にとって魅力あるまちにしようとしています。

スポーツ・文化活動
図書館管理・体育施設管理・各ライフデザインセンター運営など
H26年度より勤労青少年運動場のリニューアルがスタートしている。

安心安全
消防費や自治会活動の推進など

ごみ処理など環境保全
ゴミ処理・下水処理・し尿処理にかかる費用。

子供のため
学童保育を拡充したり、理科教育の充実・放課後子ども教室・基礎基本定着問題集の作成など寺子屋事業で教育の充実をしたり、子育て環境の改善を図ってきている。
一般不妊治療への助成や産後ケアなど、出産・育児の環境改善を図ってきている。

障がい者など社会的弱者のため
様々な福祉サービスを提供する事業者が増えてきており、サービス利用者が増加してきているため、増加傾向にある。障がい者や生活困窮者など社会的弱者の自立支援が増えてきている。

お年寄りの医療費など
高齢化が進むことによる自然増に加え、介護事業所などの増加により、介護サービスの供給量が増加したためと考えられる。

その他の行政経費
各種手続き・管理にかかる主に人件費など

産業活性化
市内企業の活性化のための国際的なビジネスマッチング、雇用先確保や移住定住・首都圏からのUターンプロジェクトなど、各務原の魅力を高めるとともに、シティプロモーションを行っている。
H27年度から航空宇宙科学博物館のリニューアルも始まった。

道路など基盤整備
自治会要望などの道路補修、日野岩地大野線などの幹線道路の整備、公共施設の耐震化、公園管理・整備など。
H26年度は市内の全防犯灯を一気にLED化した。

医療・健康・保険
ヤング健診・がん検診など予防や早期発見のための政策が増えてきた。

国・県からの資金
「お年寄りの医療」「障がい者の自立支援」「生活保護」などにかかる費用が増加しており、これに対する国からの資金が増えている。また、政府の地方創生の政策に基づく資金も加わり増加している。

前年度の繰越金

貯金の取崩し

借入金

保険料
国保料
介護保険料など

市民の負担金
保育料
施設使用料など

市税
市民税
(個人・法人)
固定資産税
都市計画税など